



初夏というには暑すぎる日が続いていますが、時折吹く心地よい風がさわやかな気持ちをもたらしてくれますね。そしていよいよ梅雨入りを迎え、戸外に出る機会は少なくなるかもしれませんが、雨の季節を楽しく過ごせる工夫をしていきたいと思います。また、雨音を聞いたり雨粒に触れたり、梅雨ならではの自然を感じる機会も大切にしていきます。

手洗いや衣類の調節など、衛生、健康面にも十分気を付けながら、じめじめとした空気を吹き飛ばし、元気に6月を過ごしていきます。

7月1日はプール開き(予定)です

プールでのお願い



子どもたちの心待ちにしていたプール開きの時期がやってきました。安全に気をつけながら、水に親しむことの楽しさを子どもたちに学んでもらいたいと考えています。

○朝食は必ずとりましょう
○朝、必ず体温をはかり、健康状態をよく見てください。熱のあるときや体調の悪いときは入水できません。
○雨天、気温の低い日、強風、行事のある日等はプールに入りません。
○耳あかをとり、手足のつめを短く切っておきましょう。
○病気にかかっている人は、早く治療をしておきましょう。特に健康面で心配なことがありましたら、事前にご相談下さい。
○入水後は非常に疲れますので、休養をしっかりとるなどして、体調管理に気をつけましょう。

子どもを自転車に乗せるときは、必ずヘルメットをかぶらせましょう！

東京都生活文化スポーツ局より

- ①停車している自転車が転倒して、前部の幼児座席に乗っている子供が頭部を負傷する事故が多く発生しています。
- ②自転車乗車時はヘルメットを着用させましょう。帽子は代わりをつとめることができません。
- ③ヘルメットは、SGマーク等安全規格が付いたものを着用させましょう。
- ④着用する場合は、あごひもは正しく締めるなど使用上の注意事項を守りましょう。誤ったかぶり方は事故時に役に立たないこともあります。



7月20日(土) 
午後5:00～7:00(予定)
SUN SUNまつり

現在保育園では7月に行われる、SUNSUNまつりに向けての準備を進めています。幼児クラスでは縦割りグループで制作などをおこなっています。



3～7 職場体験(羽2)
4(火) 保育参加・懇談会(ぱんだ)
6(木) 保健指導(らいおん)
7(金) 調理保育(ぱんだ)
7(金) 懇談会(うさぎ)
11(火) 虫歯予防集会
13(木) 音楽指導(幼児)
14(金) 懇談会(ぺんぎん)
14(金) 手洗い指導(ぱんだ)
17～21 身体測定
18(火) 体育指導(幼児)
19(水) 避難訓練
21(金) お誕生日会
28(金) 職員会議

7月の予定

1(月) プール開き
3(水) 太鼓指導(らいおん)
5(金) 七夕会(誕生)
9(火) 体育指導(幼児)
10(水) 保健指導
11(木) 避難訓練
16～19 身体測定
20(土) SUNSUNまつり
26(金) 調理保育(らいおん)

衣替えについて



日に日に暑くなり、子どもたちも水を触ったり汗をかいたりして、着替えをする回数が増えています。園にある服を夏服にして、十分な着替えの用意をお願いします。またこの機会に、名前が消えていないか確認しておいてください。

困ったときの子育て相談室

河合隼雄・古平金次郎・滝口俊子 著 創元社

依存は自立の反対ではない



子どもを育ててゆく上で、「自立」ということは大切なことです。子どもは親から自立して、自主的、主体的に生きる大人へと成長してゆかねばなりません。そこで、どの親も子どもを自立的な子どもに育てようと努力することになります。

小学校に入学する少し前の子どもで、言葉が十分にうまく話せなかったりとか、落ち着きがなくて困るとか、ということで相談に来られる親があります。お話をよく聴いてみると、子どもを「自立」させることに熱心になりすぎて、子どもの成長に必要な親への依存―甘え―を断ち切りすぎている、ということがあります。

心理学者も、かつては、自立―依存―というのを反対のことで受けとめて、自立するためには依存をできるだけ少なくすること、と誤って考えていたことがありました。しかし、最近の研究では、自立のためには適度な依存が必要だと考えられるようになりました。甘えが不足しすぎると、不安が強くなってかえって自立するのがむずかしくなります。

大人について考えても同様です。自分は自立しているのでだれの世話にもならない、などと考えるより、いろいろな人に頼り、多くの人のおかげで生きていることをしっかりと自覚し、それに感謝して生きている人こそ、自立していると言うのではないのでしょうか。

依存をできるだけ少なくして自立しようと焦る人は、自立ではなくて「孤立」になってしまうように思われます。

そんなこと言っても、「適切な甘え」というのはいったいどういうことなのか、どの程度が「適切」なのかかわからないではないか、と言われるかもしれません。これは、子どもにどの程度の服を着せるか、というのと似たようなことです。厚着をしていると、子どもはすぐ汗をかくし、何だか動きにくそうにしているでしょう。薄着にしすぎると、くしゃみをしたり、顔が青くなったりするでしょう。つまり、子どもを見ていると「適切な」服の程度がわかります。

これと同じように、子どもがかわいいと思えば抱きしめてやればよいし、夜寝るときも親といっしょのほうが安心と思えば、そうするといいいでしょう。しかし、そうしているうちに、子どもが何でもかんでも親に頼って、自分一人で行動しないようであれば、どこかで自立的な方向にすむ「しつけ」が必要ということになるでしょう。これと逆に、子どもを自立的にしつけてきたとか、しつけようと思っていても、子どもが急におねしょをしはじめたり、不安な様子を見せたりしはじめる、これは少し甘えが足りないのかな、と考えるといいいでしょう。子どもの様子を見ていると、どのあたりが「適切」かはよくわかります。

「しつけ」は小さいときから少しずつしてゆくことが大切ですが、それは甘える関係を土台として行なわれることを忘れてはいけません。甘えているなかで、どこかにビシッとしつけの筋がとおっているのがいいのです。このように、依存と自立を反対として割り切るのではなく、その両方をうまく両立させるように工夫することこそ、ほんとうの親の愛情だと言えることができると思います。

嫌いな子



二人の子どものうち、一人は好きだが他の一人は好きにならない、と言うよりほんとうは嫌いです。自分の子だから平等にと思うのだがそうならない。心をとりなおして優しくしようとしても、思わず突き放したいような悪いことをするので、どうにもならない。

こんな悩みを話されるお父さん、お母さんがおられます。時には、片方がはっきりと父親子、片方がはっきりと母親子、と家庭のなかが真二つに割れてしまうこともあります。お互いに何とか修復したいと思いつつ、実際は分裂はエスカレートするばかりです。

夫婦、つまりお互いに魅力を感じて結ばれた男女は、お互いがよく似たところがあるので好きになる部分と、まったく反対だから好きになる部分とがあります。似た者夫婦、と言ったりしますが、それだけではありません。

子どもたちは両親からのDNAの組み合わせを引き継いでいるので、きょうだいと言ってもその組み合わせによって相当異なる性格になります。ある子どもは母親自身があまり意識していないような素質を拡大してもつでしょうし、ある子は父親の欠点をもろに引き継ぐかもしれません。このため、子どもたちは両親の性格のいろいろな部分を急に拡大鏡に映すようなはたらきをします。

たとえば、母親は何かとゆったり構えていますが、父親はセカセカと動きまわる人だとしましょう。恋愛中ではそれがお互いに魅力に感じられ、男は女を「こせこせしないところがいい」と思い、女は男を「私と違って、活動的なところがいい」と思います。ところが、結婚して数年たつてくると、それまで魅力と思っていたところにかえって不満を感じたりしますが、それほど強く意識しているわけではありません。夫は妻を「もう少しさっさと動けばよい」と思いますし、妻は夫を「落ち着きがないので困る」と思いはじめます。

そんなとき、夫や妻のいま言ったような面を拡大してもっている子どもが生まれてきますと、母親は「なんと落ち着きのなの子」と思いますし、父親は「もっと早くやれ」と怒鳴るかもしれません。言うなれば夫婦の間の問題を、子どもに肩代わりさせているようなものです。

あるいは、自分がそれほど意識していなかった欠点を拡大してもっているような子どもは、どうしても嫌いになりがちです。そんなとき、自分が意識していないことがかかわってくると、どうしても感情が激しくなる傾向があり、自分でもびっくりするような怒りや嫌悪感がわきあがってきたりします。肉親であるためにかえってそれがそのまま出てきてしまつて混乱してしまうときがあります。

もうひとつ大切なことは、片方が子が「お利口ちゃん」になると、次の子(弟や妹)は無理にでも「悪い子」になって、自分の存在を目立たせようとしたりすることがあります。

子どもを嫌いという感情がわいてきたときは、以上のようなことをいろいろ考えてみます。あるいは夫婦で率直に話し合ってみると、あながい自分たちそれぞれのことや、夫婦関係のことがわかり、「ああ、なるほどそんなところがあったのか」と、子どものことから親が教えられたり、反省点が見つかったりするものです。このような気づきによって、嫌いという感情が消えてゆくでしょう。